

粕谷和夫の観察日記より。千葉県市川市の大町自然観察園です。入園して直ぐの小さな湿地状の池に1羽のサギがいて、じっと魚を狙っていました。ゴイサギの幼鳥と思いましたが、羽根に星状の模様がなかったので、帰宅後に写真と図鑑で確認したらアカガシラサギの幼鳥でした。希少種のサギに出合えてラッキーでした。

紅葉台



新聞

第211号

2025年

12月6日

発行人：関谷 孝

カワセミ会探鳥会 勝沼ぶどう郷を歩く



10月15日。参加者13名。高尾から中央本線に乗って笹子トンネルを抜けるとそこは、「真夏の勝沼」でした。この日は、秋雨前線の影響で、八王子は寒く雨模様でした。

勝沼駅から眺める

甲府盆地は遥か遠くの山並みと一面に広がるぶどう畑が眼下に広がっていました。この時期はぶどうの季節は終わりになり、近くのぶどう園では甲州ぶどうが最後の収穫を迎えていました。早速帰りに受け取ることにして注文しました。（3房で900円）甲州ぶどうは約1000年もの歴史を持つ日本古来のぶどうの品種。湿気が多い日本でも病気に強い品種です。



ぶどう畑を縫う小道を大善寺目指して歩きました。曲がりくねった道はアップダウンがありましたが、途中ぶどう畑の残り干しぶどうを見ながら歩きました。イワツバメ・イソヒヨドリ・ブラックカイト（とび）が空を舞っていました。高いフェンスにはモズが止まって高鳴きをしています。冬の使者ジョウビタキのオスが長いことすぐ近くのフェンスに止まっていた。尾羽を小刻みに上下に動かすしぐさは本当に可愛らしいですね。

大善寺は国宝「ぶどう寺」と言われていて大きな屋根が目立ちます。甲州ぶどうの祖である名僧行基開山と伝わる古刹。本堂が国宝に指定。寺でワインも作っています。



近くの柏尾坂広場は、古戦場跡で近藤勇の銅像がありました。そこから近道のぶどう畑を歩いていくとカモシカがネットに角を絡めて暴れていました。このまま力尽きてしまうのではと心が痛みましたが、いよいよ今回の目玉「大日影トンネル遊歩道」の入り口に着きました。ここで昼食をとり、すぐ近くにある縁側カフェ「やまいち」に行きました。かつて会長さんが「やまいち」で農家の食事を楽しんだご縁で店主の三枝（さえぐさ）さんにご挨拶に行きました。

三枝さんは、近所の農家の人たちと「指人形劇」をしています。会館や施設に出向いて演じていたのが評判となり、TV局が取材に来ました。梅沢富美男が取材に来て、一緒に「創作金色夜叉」を楽しんだ話や、NHKが3年間にわたってぶどう農家の人たちをアーカイブで記録をしに来た話を聞きました。三枝さんは大変なご苦労がたくさんありましたが地域の中心となって活躍しています。しかし残念な



ことに来年春で指人形劇は終わりにするそうです。高齢者になり活動が難しくなったためです。でも農家の美味しいご飯はリピートがいて賑わっています。興味がある方は、予約をしていかれるといいと思います。テーブル一杯の地元野菜が沢山並ぶと会長さんが話していました。



その後、ここから約1.4キロメートル、徒歩で約30分の大日影トンネル歩きです。明治29年（1896年）9月に始まった中央本線八王子・甲府間の建設工事は明治36年に開通しました。ブドウやワインの樽を馬の背に乗せ3日から6日かかっていたのが鉄道ではわずか半日で運ぶことが

出来るようになりました。鉄道は、ブドウやワインの輸送に大きな影響を与えました。また、鉄道を使って観光事業の先駆的な取り組みも始められました。レンガを使ったトンネル技術はワイン貯蔵庫の建設にも応用されています。「勝沼トンネルワインカーブ」として今でも使われています。また、トンネル内には水路があり、湧水が多く、その排水のため設置されました。かつてこのトンネルは蒸気機関車が通り、煙突から黒い煤が排煙されていました。改修工事が終わり今は天井もきれいになっています。通行時間は午前9時から午後4時。勝沼駅に通じていますので高低差なく歩けます。中央線は1時間に1本の電車なので時刻を見て歩くといいと思います。この日は1万歩以上の歩きでした。野鳥のベストはジョウビタキ・モズ・トビ。帰りのトンネルを抜けると八王子。うって変わって雨模様の寒い日でした。（やまいち ☎ 0553-44-1621）



粕谷和夫の観察日記



ナンバンギセルです。10月20日、八王子・宇津貫緑地。茎に見えるのは直立した「花茎」で、その先に横向きの花が着いている形を「キセル」に見立てた名前です。葉緑素をもっていないので光合成で栄養を作らず、全ての栄養を寄生相手に頼ります。寄生相手は主にススキ、

他にミヨウガ等ですが、この写真はアズマネザサで（写真下）で珍しいです。



オギの穂の中のカワセミです。10月29日、八王子市南浅川にて。南浅川の河原にはオギやツルヨシが繁茂しています。この写真はススキに似たオギの穂に止まり魚を狙っているカワセミのポーズです。背中のコバルトブルーが輝いています。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。